

グルカゴン注射用1単位「イトウ」

【この薬は？】

販売名	グルカゴン注射用1単位「イトウ」 GLUCAGON for Inj. 1unit "ITO"
一般名	グルカゴン glucagon
含有量 (1バイアル中)	1 USP*単位

*：米国薬局方

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」
<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、グルカゴン製剤と呼ばれる注射薬です。
- ・この薬は、肝臓に作用して、ブドウ糖を動員し血糖値を上昇させます。
- ・次の目的で、自己注射のため処方されます。

低血糖時の救急処置

この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族が、注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減せず、医師の指示に従ってください。

- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

成長ホルモン分泌機能検査

インスリノーマの診断

肝糖原検査

低血糖時の救急処置

消化管のX線及び内視鏡検査の前処置

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・褐色細胞腫がある人
- ・過去にグルカゴン注射用 1 単位「イトウ」に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人

次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・心臓が悪い高齢の人
- ・糖尿病の人
- ・肝臓に肝硬変等の障害のある人
- ・糖原病 型の人

この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔低血糖時の救急処置の目的で自己注射する場合〕

使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の使用量は、1 バイアルです。

どのように使用するか？

- ・1 バイアルを添付の注射用水 1 mL に溶かし、筋肉内または静脈内に注射します。
- ・溶解後は速やかに使用してください。
- ・筋肉内に注射する場合には、神経走行部位を避けてください。
- ・繰り返し注射する場合は、同一部位を避けてください。
- ・激しい痛みがあったり、血液が逆流したりした場合には、すぐに針を抜いて部位を変えて注射してください。
- ・溶かしたときに、完全に溶けない場合や、浮遊物がみられた場合は使わないでください。
- ・使用後の針は、そのまま容器等に入れて子供の手の届かないところに保管してください。
- ・使用説明書「低血糖処置にグルカゴン注射用 1 単位「イトウ」を注射される方へ」をお読みください。

低血糖処置にグルカゴン注射用1単位「イトウ」を注射される方へ 大切な注意です 必ずお読み下さい

- ◎意識を失うような強い低血糖症を起こしたとき、看護者（家族等）がグルカゴンを注射します。低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかつたり、わからずに意識不明になることもあるので注意して下さい。
- ◎低血糖症の処置法に十分注意して下さい。この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいて下さい。
- ◎何か体の調子がいつもと違うことに気がついたら、すぐに主治医に相談して下さい。
- ◎あなたに処方された糖尿病の薬の注意文書（患者さん用）も併せてお読み下さい。

1. 低血糖症について

- (1)低血糖症とは血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。空腹時に起こり、食物を食べると急に良くなるのが特徴です。はなはだしい場合にはけいれんを起こしたり意識を失うこともあります。
- (2)糖尿病の薬の量が多過ぎたり、医師によって指示された時間に食事をとらなかつたり、いつもより激しく運動したりすると低血糖症が起こることがあります。低血糖症は危険な状態ですから、起こらないように注意し、もし起こったら、軽いうちに治してしまわなければなりません。
- (3)低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかつたり、わからなかつたりすることがありますので家族やまわりの方もいっしょに注意して下さい。
- (4)十分注意していても、ときには意識を失うような強い低血糖症が起こらないとも限りませんから、糖尿病であることを示すカードを身につけておく必要があります。

2. 低血糖症が起こったら

(1)軽い低血糖症が起こった場合（意識があるとき）

低血糖症になっても軽いうちは糖分を食べると治ります。食べられるときは20～30gの糖分をとって下さい。

(2)意識を失うような強い低血糖症が起こった場合（口から糖分がとれないとき）

- 1)まず、救急車をよびます。
- 2)グルカゴンを注射します。
- 3)通常、注射してから20分以内に症状が回復します。もし回復しない場合は、すぐに救急車で病院へ行って下さい。このようなときには、グルカゴンを2度注射しても効果はありません。
- 4)回復したら必ず20～30gの糖分をとって下さい。（あるいは食事をして下さい。）
- 5)低血糖症を起こしたことを必ず主治医に報告して下さい。

（注意）アルコールを飲んでいて低血糖症を起こした場合、グルカゴンを注射しても効果がありませんので注意して下さい。

3. 正しい注射方法

- (1)注射手技などの方法については、主治医の指導をよく受け、正しく注射して下さい。
- (2)注射する前には手指を石鹸でよく洗って下さい。バイアル瓶のゴム栓を消毒用アルコール綿でいねいに拭いて下さい。
- (3)注射するときは、薬を添付の溶解液で溶かして使います。溶解液を必ず全量加えた後、泡立てないように注意しながら、バイアルを静かに振って溶かして下さい。完全に溶けなかった場合、又は浮遊物がみられた場合は使用しないで下さい。

4. グルカゴンの保存方法

- (1)冷蔵庫内に食物などとは区別して包装箱に入れたまま清潔にして保存して下さい。しかし凍らせてはいけません（フリーザーの中には絶対に入れないで下さい）。
- (2)直射日光のあたるところ、自動車内などの高温になる恐れのあるところには置かないようにして下さい。
- (3)グルカゴンは溶解後、すぐに使用して下さい。（溶解後凍らせた場合は使用しないで下さい。）
- (4)外箱に表示してある使用期限を過ぎたグルカゴンは使用しないで下さい。

2015年10月改訂

効果が不十分な場合の対応

低血糖を生じた人にグルカゴンを使用すると通常20分以内に症状が改善しますが、症状が改善しない場合は、ブドウ糖の静脈内注射等適切な処置が必要です。ただちに受診してください。

グルカゴン注射用1単位「イトウ」を一度に2回使用することは避けてください。

多く使用した時（過量使用時）の対応

嘔吐、吐き気、血清カリウム低下（筋力の低下、脱力感）などがあらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに医師に連絡してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・インスリノーマのある人またはその疑いのある人は使用後の低血糖症状に注意してください。
- ・注射後に二次的な低血糖を起こすことがあります。低血糖症状に基づくめまい、ふらつき、意識障害を起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意してください。
- ・患者さんや看護者（家族など）の方は、正しい使用方法、注射方法、低血糖について十分理解できるまで説明を受けてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用する可能性があることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック ショック	めまい、立ちくらみ、頭痛
アナフィラキシー ショック アナフィラキシーショック	ふらつき、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、顔面蒼白、動悸（どうき）、からだがだるい、ほてり、じんましん、意識の低下、判断力の低下、考えがまとまらない
低血糖症状 ていけつとうしょうじょう	めまい、空腹感、ふらつき、手足のふるえ、脱力感、頭痛、動悸（どうき）、冷や汗

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	立ちくらみ、ふらつき、脱力感、冷や汗、からだがだるい
頭部	めまい、意識の低下、頭痛、考えがまとまらない
顔面	ほてり、顔面蒼白
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声
胸部	息切れ、息苦しい、動悸(どうき)
腹部	空腹感
手・足	手足のふるえ
皮膚	じんましん
その他	判断力の低下

【この薬の形は？】

性状	白色の粉末
容器の形状	 <p>写真左：溶解して用いる注射製剤（バイアル） 写真右：溶解液 <注射用水 1 mL>（バイアル）</p>

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	グルカゴン
添加物	乳糖、塩酸、pH調整剤

【その他】

この薬の保管方法は？

- ・光と凍結を避け、冷蔵庫などの涼しいところ（1～15℃）で保管してください。
- ・溶解後は速やかに使用してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

この薬の廃棄方法は？

- ・使用済みの針およびバイアルについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社： I L S 株式会社 (<http://www.ils.co.jp/>)

発 売 会 社： カイゲンファーマ株式会社 (<http://www.kaigen-pharma.co.jp/>)

商品企画部 学術課

電話：06-6202-8975

受付時間：9時～17時

(土、日、祝日、その他当社休業日を除く)